

シンクライアントソリューションを強化 ～ HP Moonshot System を使用して、ハードウェア占有型のソリューションを提供～

伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）は、パフォーマンスを重視したハードウェア占有型のシンクライアントソリューションの提供を開始した。

近年、災害対策やグローバル化、ワークスタイル改革を目的として、シンクライアントソリューションを利用する企業が増えている。これまでは、仮想環境を利用して物理リソースを共有したシンクライアントソリューションが一般的だが、十分なリソースがない場合はパフォーマンスの低下が問題になる場合があった。

今回、CTC が提供を開始したシンクライアントソリューションは、ハードウェア占有型（HDI：Hosted Desktop Infrastructure）のソリューションだ。HP 社の高密度サーバ「HP Moonshot System」とサーバモジュール「HP ProLiant m700 サーバカートリッジ」※¹（以下、HP ProLiant m700）を使用しており、高さ約 20cm の筐体（4.3 ラックユニット）で計 180 台分のクライアント環境が提供可能。リソース共有による一時的なパフォーマンス低下が発生しないため、システムを安定的に利用できる。また、フラッシュメモリを用いた高速な記憶媒体である SSD（Solid State Drive）や高度なグラフィック機能なども備えている。

また、クライアント環境のユーザーへの展開やリソース管理は、Citrix 社のデスクトップ仮想化ソフトウェア「Citrix XenDesktop」※²（以下：XenDesktop）を採用し、運用時に必要な OS の展開、更新プログラムの配信、アプリケーションの配信・更新、マルウェア対策等のシステム管理は、Microsoft 社のシステム管理ソフトウェア「Microsoft System Center 2012 R2」※³（以下：Microsoft System Center）を利用して

CTC は、HP ProLiant m700 を中心に、十分に検証された組み合わせとして、本シンクライアントソリューションを構築した。導入期間の短縮のため設計書や手順書等のドキュメントテンプレートも用意している。CTC の総合検証センター「Technical Solution Center」※⁴では、組み合わせや接続を検証できる環境を用意し、デモによる体感サービスも提供している。

CTC は、既に多くのシンクライアントソリューションの導入実績があり、今回のハードウェア占有型シンクライアントソリューションの提供によって、お客様の多様な要望に対応できる選択肢を増やし、ワークスタイルの変革を通してビジネスの発展を支援している。

※¹ HP ProLiant m700 サーバカートリッジ：HP ProLiant m700 は 1 カートリッジに、AMD Opteron X2150 APU SoC を 4 基搭載。GPU 内蔵 SoC の採用とクライアント OS のサポートにより、このカートリッジは HDI と呼ばれる物理インフラによるリモートデスクトップソリューションのプラットフォームに最適。HDI はモバイルユーザーに関するセキュリティを強化しつつ、従来型のデスクトップに比べ TCO を 44% 削減可能。

※² Citrix XenDesktop：Windows デスクトップを、どこからでもアクセスできるオンデマンドサービスへと変革するデスクトップ仮想化ソリューション。PC、Mac、タブレット、スマートフォン、ノート PC、シンクライアントなど、どんな端末を使っているか、Windows、Web および SaaS アプリケーション、または完全な仮想デスクトップを提供。Citrix HDX テクノロジーにより、パフォーマンスと帯域幅のバランスを取ることでネットワークとパフォーマンスを最適化し、低帯域で遅延が大きい WAN 接続経由であってもスケラビリティと実用性を兼ね備えたデスクトップ仮想化を実現する。

※³ Microsoft System Center：クラウド環境にも対応した最新のシステム運用管理スイートになり、8 つのコンポーネントで構成されている。システム構成管理を行うコンポーネントとして Configuration Manager が提供されており、ユーザー要求に基づいたアプリケーション配布やマルウェア対策ツールとの統合など、従来からの Windows クライアント/サーバの構成管理機能が実現できる。さらに iPhone や Android などのモバイルデバイス管理機能も用意されており、企業内の全てのデバイスの一元管理環境を提供し、IT 管理者のタスクをシンプルかつ自動化に対応させることが可能なので、結果として運用管理コストの削減に貢献することができる。

※⁴ Technical Solution Center (TSC)：マルチベンダー環境での総合検証センター。約 200 人の技術スペシャリストを中心に、年間 2,000 件以上の技術や製品、案件の検証を実施。クラウドやビッグデータを含め、各分野の最新のデモンストラーション環境も常設している。

●伊藤忠テクノソリューションズ

TEL：03-6203-4100

10Gbps イーサネットに対応した光一芯式メディアコンバータ新製品を販売開始 ～ 4K/8K 高精細動画やビッグデータなどの伝送に最適～

NEC と NEC マグナスコミュニケーションズは、ビル内のイーサネットを集約し光信号に変換することで、高速の光ファイバを用いた拠点間の通信を実現する光一芯式メディアコンバータの新製品を販売開始した。

本製品は高速 10Gbps イーサネットに対応した装置で、同一のサブラック※¹に従来の 100Mbps/1Gbps 装置との混在実装が可能のため、既存設備を有効活用し CAPEX（設備投資）を削減可能。また、従来と同じ監視・制御方式を採用しているため、既存装置と合わせた一括の運用・保守が可能であり、OPEX（運用コスト）の削減にも貢献できる。

昨今、企業や官公庁では、4K/8K など高精細動画の配信やビッグデータの収集・配信、データセンターのディザスタリカバリなどの用途で、拠点間のデータ通信を行うネットワークの大容量化・高信頼化へのニーズが高まっている。メディアコンバータは、ビルなど特定のエリア内のイーサネットを集約し信号を電気から光に変換して光ファイバで伝送することで、拠点間の通信を高速に実現する装置だ。本装置は、サービス加入者のオフィスや宅内に設置しイーサネット回線を光ファイバ用の信号に変換する「リモート側単体装置」と、主に通信事業者の局舎に設置し光

ファイバを集約する「センタ側集合装置」で構成されており、両者がセットで使用される。

NEC は従来から「光一芯式メディアコンバータ・シリーズ」として、100Mbps イーサネット対応の「ME3200 シリーズ」や 1Gbps イーサネット対応の「GM3200 シリーズ」を通信事業者を中心に販売してきた。今回、より高速な 10Gbps イーサネット対応の新製品「XM1600 シリーズ」を発売し、ラインアップを拡充することで、顧客の多様なニーズに対応していく。

「XM1600 シリーズ」の特長は、次のとおり。

◆低コスト・高効率な一芯式光ファイバを用いて長距離伝送を実現：光ファイバを二本使う二芯式と比較して低コスト・高効率な一芯式光ファイバを使用して、最大 40km ※²の長距離伝送を実現。また、局舎/加入者間の距離に応じて、M タイプ（伝送距離約 20km）と L タイプ（伝送距離約 40km）の装置を選択可能。

◆異なる通信速度の装置を同一のサブラックに混在実装可能：1 台のサブラックに、新製品の 10Gbps 対応「XM1600」と既存製品の 100Mbps 対応「ME3200」/1Gbps 対応「GM3200」を混在して実装可能。これにより、異なる通信速度を同一のサブラックに実装可能となり、既

設のサブラックを有効活用することで顧客の CAPEX 削減を実現。また、回線ごとに独立して動作しているため、運用中の回線を止めることなく装置の保守・運用作業が可能。

◆新製品と従来製品を一括で遠隔運用・保守が可能：センタ側集合装置からリモート側単体装置を遠隔で監視・保守・障害の切り分けができる保守機能を搭載。本機能は、既存製品と同一であるため、100Mbps から 10Gbps までの製品を一括で運用・保守が可能となり、ネットワークの高信頼化と顧客の OPEX 削減を実現※³。なお、センタ側集合装置は、SNMP ※⁴・CLI ※⁵・Web ブラウザなど顧客のニーズにあわせた多様な方法で操作可能。

※¹ サブラック：100Mbps/1Gbps の回線モジュールを最大 32 個、10Gbps の回線モジュールを最大 16 個搭載できる筐体。冗長電源も搭載している。高さ 132mm、3U。

※² 伝送距離は、伝送路に用いる光ファイバの状態（損失・分散）、光コネクタ、スプライス箇所などの統合損失により異なる。

※³ 10Gbps 対応「XM1600」の監視・制御を行うには、サブラックに搭載した監視制御盤のファームウェアアップデートが必要。

※⁴ SNMP：Simple Network Management Protocol の略。IP ネットワーク上の通信機器を監視・制御するための情報の通信方法を定めたプロトコル。

※⁵ CLI：Command Line Interface の略。キーボードからのコマンド入力により、機器の設定や操作を行うユーザーインタフェース。

●NEC マグナスコミュニケーションズ

TEL：03-3798-7963

サイバーセキュリティの脅威から企業の Web サイトを守る SaaS 型サービス「セキュリティ・プラス Web サイトプロテクション」を提供開始

アズジェントは、横行する DDoS 攻撃や Web サイト改ざん等の被害から Web サイトを守るためのクラウドサービス「セキュリティ・プラス Web サイトプロテクションサービス」の提供を開始した。

企業 Web サイトは、DDoS 攻撃や SQL インジェクション、クロスサイトスクリプティング、DNS アタック、あるいはサイトコンテンツの改ざんや情報の詐取等、多様化かつ高度に複雑化したサイバーセキュリティの脅威に晒されている。また、

攻撃の標的となった場合の影響は、自社の社会的信用の失墜を含めた企業活動への影響のほか、攻撃の「加担者」となってしまう可能性もある。

アズジェントが提供を開始した「セキュリティ・プラス Web サイトプロテクションサービス」は、WAF (Web Application Firewall) が持つ機能をより企業が導入しやすいクラウド/SaaS型で提供するものだ。本サービスにより、企業はシステム構成変更やサービス停止等を行うことなく WAF の機能を導入できる。本サービ

スの根幹となる WAF の機能は、IMPERVA 社が提供する SaaS 型クラウド WAF サービス「Incapsula」をベースにしている。Incapsula のプラットフォームは、常に世界のサイバーセキュリティ動向を踏まえて最適化された状態が維持されており、利用者は複雑な設定を行うことなく導入の時点からその効果を発揮することができる。本サービスの料金は月額 98,000 円から。

●アズジェント

TEL : 03-6835-7402

企業のビッグデータ活用を加速させる新製品「Oracle Big Data SQL」を発表

日本オラクルは、業界標準の SQL (構造化問い合わせ言語) を用いて、リレーショナル・データベースのみならず、Hadoop や NoSQL データベースといった各種データソースに格納されている構造化および非構造化のあらゆるデータへアクセスすることを可能にし、企業におけるシンプルかつ迅速、セキュアなビッグデータ活用を支援する新製品「Oracle Big Data SQL」を発表した。本製品は、ビッグデータ活用に特化したオラクルのエンジニアド・シス

テム「Oracle Big Data Appliance」上で稼働し、高速データベース・マシンである「Oracle Exadata Database Machine」と連携して稼働する。

従来、企業レベルでビッグデータを利用するには、新しいテクノロジーや言語、スキルが必要とされていた。「Oracle Big Data SQL」では、既存の SQL スキルが利用できるため、新たな人材育成のための多額の投資を行う必要はなく、既存のテクノロジーやアプリケーション、ツールへの投資の有効活用が可能とな

る。これにより、データアクセスのための業界標準言語である SQL を用いた、シンプルかつ迅速、セキュアなビッグデータ活用を実現する。

「Oracle Big Data SQL」を導入することで、既に企業で運用されているセキュリティポリシーを含む「Oracle Database」のセキュリティ機能を、Hadoop と NoSQL のデータにも拡張適用することができる。

●日本オラクル

TEL : 03-6834-4837

A10ネットワークス

新プラットフォーム「Thunder SPE」により、ハードウェアベースの高速なDDoS 防御機能を 実装したIPv4 枯渇対策・IPv6 移行ソリューションの新機種を発表

アプリケーションネットワークのテクノロジーリーダーであるA10 ネットワークスは、IPv4 枯渇対策およびIPv6 移行機能を提供する「Thunder CGN (Carrier Grade Networking) 製品ライン」に新機種「Thunder 5435 CGN」「Thunder 6435 CGN」を追加し、本年9月下旬から提供開始する。同製品は、新プラットフォーム「Thunder SPE」を採用しており、高速なハードウェアベースのDDoS (分散型サービス拒否) 攻撃防御機能を提供する。

「Thunder 5435 CGN」「Thunder 6435 CGN」は、独自のハードウェア「SPE モジュール」が搭載された新プラットフォーム「Thunder SPE」で提供される。Thunder SPE プラットフォームはDDoS 防御専用ハードウェア「Thunder TPS 製品ライン」の上位モデルでも採用されており、セキュリティ機能の高速化と様々なポリシーベースのネットワークワーキング機能をハードウェアで実現する。

Thunder CGN 製品ラインの

DDoS 防御機能は、同社の最新 OS 「ACOS 2.8.2」で追加された新機能で、「Thunder 5435 CGN」「Thunder 6435 CGN」は、強固なセキュリティ機能とSPE モジュールのハードウェア処理能力によって、たとえボリューム型DDoS 攻撃を受けている最中でもパフォーマンスに影響を受けずに、最大155Gbpsの高性能なIPv4 枯渇対策・IPv6 移行機能を提供し続けることができる。

● A10 ネットワークス

TEL : 03-5777-1995

シュナイダーエレクトリック

冷却シミュレーション機能を強化した 「StruxureWare Data Center Operation v7.4」を発売

エネルギーマネジメントのグローバルスペシャリストであるシュナイダーエレクトリックは、データセンターのライフサイクルを通じて、高可用性と最大効率を最適に保つための「アクションナブル・インテリジェンス」(実用的で有益な情報)の活用をはじめとする新機能を追加し、冷却シミュレーション機能を強化した「StruxureWare Data Center Operation v7.4」を発売する。

本製品は、シュナイダーエレクトリックが展開しているDCIM (Data

Center Infrastructure Management) ソリューションスイートであるStruxureWare for Data Centersの一部として、データセンターやサーバールームに利用される電力監視およびネットワーク・マネジメントを最適化する。加えて、データセンターやサーバールーム内における電力容量の最大化および物理インフラの適正化を図るとともに、既存のDCIM システムとの統合により、データセンターおよび設備管理者の負荷を軽減し、設備投資や運用コストの削減を

実現する製品だ。主な特長として、①ネットワーク・マネジメント・ビジュアル化、②冷却シミュレーションの機能拡張、③ブレイカーレベルの電力容量管理と影響分析の機能拡張、などがあげられる。

シュナイダーエレクトリックでは、運用の設計および構築から評価、計画に至るまで、データセンターのライフサイクルを通し最大限の効率化を実現する製品として展開していく。

●シュナイダーエレクトリック

TEL : 03-6402-2001